

①表題，著者名，所属機関

症例報告

《題名》免疫療法により偽増悪を来したと考えられた悪性胸膜中皮腫の1例

山田 堯徳¹⁾³⁾，山川 英晃¹⁾³⁾，宇塚 千紗¹⁾，安達 章子²⁾，
松島 秀和¹⁾

所属機関名

- 1) さいたま赤十字病院 呼吸器内科
- 2) さいたま赤十字病院 病理診断科
- 3) 東京慈恵会医科大学 呼吸器内科

② 要旨

症例は 77 歳，男性．上皮型悪性胸膜中皮腫の診断で一次治療のニボルマブ＋イピリムマブの投与を開始したが，2 コース目投与前に胸水の増加に伴い呼吸困難が出現した．病勢進行の可能性があったが，偽増悪（pseudoprogression）を疑い ICI の投与を継続した．胸水検査で T 細胞性リンパ球が著明に増加し偽増悪に矛盾ない所見を確認でき，その後は症状，陰影ともに軽快した．悪性胸膜中皮腫における偽増悪の報告は稀ではあるが存在し，本例では胸水のセルブロック検体の病理学的評価が鑑別に有用であった．

③ キーワード，短縮表題

悪性胸膜中皮腫，偽増悪，ニボルマブ，イピリムマブ

Malignant pleural mesothelioma, Pseudoprogression, Nivolumab,
Ipilimumab

短縮表題：偽増悪を来したと考えられた悪性胸膜中皮腫